

お題『夏』

7月に入り、たぶんもうじき梅雨も明けることでしょう。そうしたら本格的に暑くなって、セミが鳴いたりするのでしょう。花火もプールもスイカ割りも、夏の風物詩はどれも好きなのに、どうしてもこの季節が好きにならない私。とにかく暑いのがたまらなく苦手。何も食べたくないし、何もしたくないという気分になってしまうのです。ところがどうよ。去年あたりからその夏を少し好きになれたような気がします。暑さは相変わらずダメだけど、そんな中少しずつ行動できるようになってきたのです。そのきっかけは、去年の夏休みに出演していた舞台。猛暑の中毎日稽古に通い、クーラーの効かない密室で半日動きまくり、信じられないほど汗をかく。いつもの夏なら私はできるだけ涼しい所で、できるだけ動かないように生活していたでしょうが、稽古ではそれと全く正反対なことをやるわけです。しかも連日。このことが、私をちょっと強くしてくれました。暑いけど、その中で私戦ってるんだわって思えば、なぜかパワーになるのです。

そうして鍛えられたおかげで、去年はいつもより活動的に夏を過ごしていました。今年、また夏が来て、今の私は半分憂鬱でありながら、どこか楽しみだという気持ちでがしていて不思議です。やっぱり、私変わったんだなって。そうか、こういうふう人間って気が変わったりするんだわって。そう思います。人が、何かを好きだとか嫌いだとか感じる理由なんて実はとても単純で、その気持ちが変わってしまう時の理由も、ほんとに単純なんだなあ。これは悲しいことでもなんでもなくて、人間て歳を重ねただけで自然と変わって行くものだし、そうでなくちゃいけないと思う。大事なものは、変わる前の自分も、変わった後の自分も、認めることなのではないかな。



そんな中、ついこの前、早くも海を見て来ました。その日はとても暑くて、梅雨なんてどっか行ってしまったかのようなので、私は久しぶりにまる1日オフで、それなのに遊ぶ予定が飛んでしまって最悪な気分の休日だったので、不意にかかってきた友達からの「海行かない？」の電話に、ものすごく魅力を感じてしまったのです。すぐに出発したものの、渋滞してたりして結局海を見れたのは日が沈む直前の時間になってしまいました。それでも、私はその時の海が、今まで見た中で一番綺麗だったと思うのです。夕方と夜の間の、あの青い時間ってとても短いけど私が一番好きな時間帯だし、それに一緒に行った友達がなんだかとても愛おしく感じた。少し前まで、友達の運転する車で急に海を見に行ったりするなんて遊びは考えられなかったのに、今私達はそんな広い行動範囲を得ていて、しかも時間もある。もっと子供だったら車の免許を持っていないし、逆にもっと大人だったらみんなそれぞれ社会人になっていて忙しく、集まるにも一苦労かもしれない。そう考えるととても寂しくて、今が続けばいいと思った。それでもみるみるうちに空は暗くなり、時間は過ぎて行ってしまうので、今この瞬間は二度とないのだと思い知らされたのでした。

私の嫌いなものは時々、気が変わって好きなものになることがある。そういうことを繰り返して、今まで好きなものを増やして来たのだと思います。もちろんその逆もあるけど、やっぱり昔より好きなものがどんどん増えていってる気がする。

その一つに、もうすぐ夏が加わるでしょう。結局、誰だって気が変わるなんて日常茶飯事。だけど私がこの前感じた海での気持ちは、いつか遠い先に思い出してもあのままだろうか。友達となかなか会えなくなってからも、思い出すだろうか。私の中で一生変わらない部分ってどこなんだろう。



きっと人間には変わって行く部分と変われな
い部分があるはず。
そういうバランスを取りながら、歳をとっていきんだらうなあ。



* maaya *

(photo by maaya.)

... **THE ID**